明治三十九年荘田平五郎（三菱長崎造船所長）退任における長崎市有志者贈呈《鼈甲製写真画帖》について
――明治四十年長崎行啓における献上写真画帖との比較

姫野　順一

一、はじめに

平成三十年（二〇一八）度、文部科学省の大型設備補助事業（図書）により、長崎外国語大学は秋田の古書店から《鼈甲製写真画帖》（図1、以下荘田帖）を入手した。表紙には「贈呈荘田君　長崎（市）（註1）有志者」と黒甲の文字が貼られている。ここから、この写真画帖は明治三十九年（一九〇六）十二月に三菱長崎造船所を退任した、荘田平五郎所長への長崎市民からの贈呈品であることがわかる。

これに類似する《鼈甲製写真画帖》（図2、以下献上帖、三の丸尚蔵館所蔵）が、明治四十年十月に長崎に行啓した皇太子嘉仁親王（後の大正天皇）に献上されている。両帖は鼈甲細工が二枝鼈甲店で施され、写真撮影と調整は竹下写真館が実施したことで共通している。荘田帖の外箱の底面に貼られた二枝鼈甲店のラベル（図4）には、上部中央に、一九〇六年四月二十八日から十一月十一日まで開催されたミラノ万国博覧会の金メダルが掲げられている（註2）。これにより荘田帖の製作は、荘田が長崎から離任する直前だったことが判明する。献上帖はその十カ月後の明治四十年十月二日頃に発注され、二十五日に献上されている。このように写真史の研究上、製作年時が明らかで、連続しているが独立する重複アルバムの存在は稀少である。

両帖とも、日露戦争（明治三十七～三十八年）時代の長崎を撮影し、約六十枚の写真を収載している。

献上帖の製作経緯と収載写真の資料的意義は、同時に皇太子に献上された《長崎水産共進会写真帖》（宮崎寛治郎撮影、註3）とともに、本誌第二十号で木下（木谷）知香論文が分析している（註4）。本稿はこれを補い、製作者が同じである献上帖と荘田帖の製作過程、撮影者、写真選択の経緯を明らかにし、両帖の資料的価値を考察する。

二、荘田平五郎旧蔵《鼈甲製写真画帖》

外箱は木製で、外装に青色のビロード布が張られている（図3）のは両帖に共通している。荘田帖外箱の底面の二枝鼈甲店のラベルは店の英文による広告である（図4）。

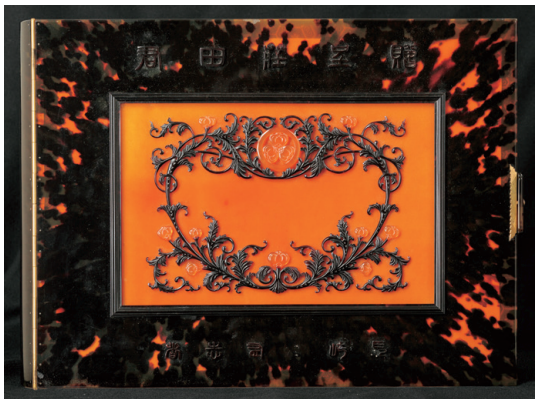
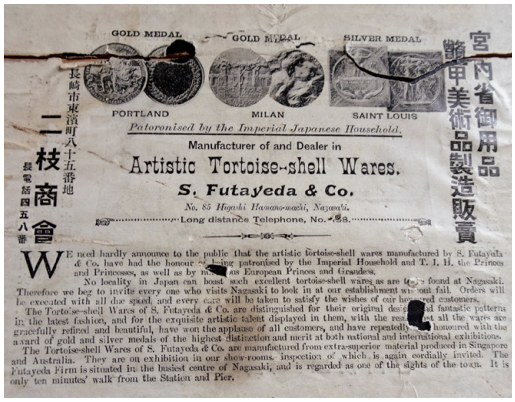


図1　荘田平五郎旧蔵《鼈甲製写真画帖》

図2　皇太子に献上された《鼈甲製写真画帖》

図3　外箱に収納された荘田帖



GOLD MEDAL　GOLD MEDAL　SILVER MEDAL
PORTLAND　MILAN　SAINT LOUIS
Patronised by the Imperial Japanese Household.
Manufacturer of and Dealer in
Artistic Tortoise-shell Wares.
S. Futayeda & Co.
No. 85 Higashi Hamano-machi, Nagasaki.
Long distance Telephone, No. 4[illegible]8.
長崎市東濱町八十五番地
二枝商會
長電話四五八番
宮内省御用品
鼈甲美術品製造販賣

W[illegible]ould hardly announce to the public that the artistic tortoise-shell wares manufactured by S. Futayeda & Co. have had the honour [illegible] being patronized by the Imperial Household and T. I. H. the Princes and Princesses, as well as by [illegible] as European Princes and Grandees.
No locality in Japan can boast such excellent tortoise-shell wares as are to [illegible] found at Nagasaki. Therefore we beg to invite every one who visits Nagasaki to look in at our establishment without fail. Orders will be executed with all due speed, and every care will be taken to satisfy the wishes of our honoured customers.
The Tortoise-shell Wares of S. Futayeda & Co. are distinguished for their original designs and fantastic patterns in the latest fashion, and for the exquisite artistic talent displayed in them, with the result that all the wares are gracefully refined and beautiful, have won the applause of all customers, and have repeatedly [illegible] honoured with the award of gold and silver medals of the highest distinction and merit at both national and international exhibitions.
The Tortoise-shell Wares of S. Futayeda & Co. are manufactured from extra-superior material produced in Singapore and Australia. They are on exhibition in our show-rooms. Inspection of which is again cordially invited. The Futayeda Firm is situated in the busiest centre of Nagasaki, and is regarded as one of the sights of the town. It is only ten minutes' walk from the Station and Pier.

図4　外箱の底面に貼られた二枝鼈甲店のラベル

図5　荘田帖ののど部分

荘田帖の表紙・裏表紙・背・留め具には黒甲が用いられ、表紙の中央はより高価な透明の白甲が貼られている。その上部中央に荘田家の家紋である「茶の実」が白甲で貼られ、その周りの上下に黒甲の茶の葉文様を透かして張り付けている（註5）。荘田帖の法量は縦二七・三×横三六・五×高さ七・〇㎝で、献上帖より若干薄い（註6）。アルバム台紙は写真を挟み込めるように二重となっていて、形状および枚数は十二枚で献上帖とまったく同じである。帖ののどや三方などは黒の絹地に亀甲文様八葉菊紋の金襴が飾られている（図5、註7）。収録写真は両帖とも、アルバム台紙に空けられたa：上縁が曲線の四角形大二枚分（図6―1）、b：楕円形大二枚分（図6―2）、c：上縁が曲線の四角形小六枚分（図6―3）、d：楕円形小六枚分（図6―4）の窓枠に嵌めこまれている。二つの写真画帖は双子のペアーと見ることができる。

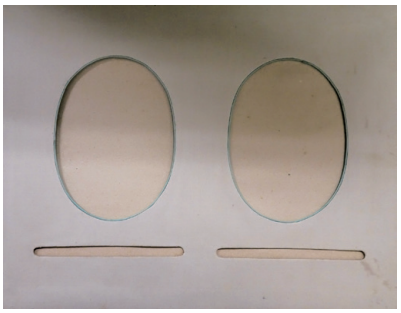


図6-2

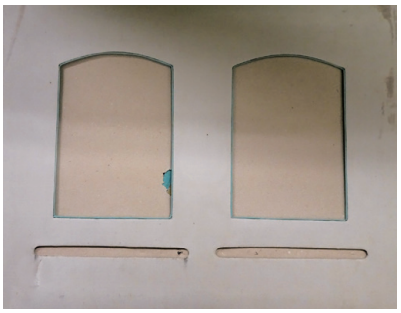


図6-1

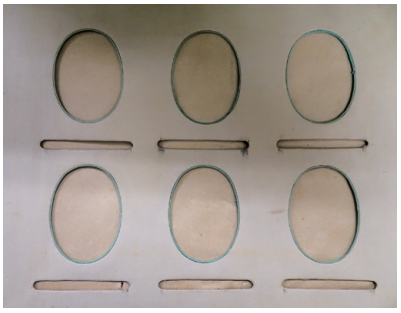


図6-4

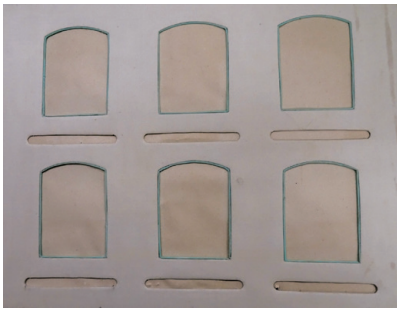


図6-3

図6　荘田帖のアルバム台紙の型

アルバム台紙の形状と枚数は両帖で同じだが、献上帖の六十四枚の写真すべては厚紙灰色台紙付き縦型写真で統一されている。献上帖の写真には裏面に息子の竹下佳行のゴム印（図7）と、父佳治が使ったゴム印（図8）の二種が押し分けられている。これは撮影者が二人であることを示唆する重要な情報と思われる（註8）。

これに対して荘田帖の収載写真六十一枚（三枚窓枠から紛失）の形状はバラバラで、A：手札版・灰色厚紙台紙ロゴ入り（二枝鼈甲店の商品のコラージュ写真・裏面に二枝鼈甲店のゴム印有、図9）一枚、B：手札版・白色金縁厚紙台紙・ロゴなし十七枚、C：手札版・白色斑点入り薄紙台紙・ロゴなし十九枚、D：名刺版・灰色厚紙台紙・ロゴ入り十二枚、E：名刺版・白色薄紙台紙・ロゴなし十二枚の五種類が見分けられる。

荘田帖の撮影対象は献上帖と同じく長崎市街及びその郊外に限定されている。被写体は名勝風景や神社仏閣および近代的な建築物、記念碑、公園、遊郭、造船所、港湾などである。内容は洋風化と工業化が進む「長崎」を切り取っている（註9）。

洋風の象徴は長崎県庁、交親館（県議事院兼外賓接待所）、警察署、郵便局、監獄、医学校、急行列車、商品陳列館、大浦のフランスホテル、長崎港の汽船、茂木桟橋、茂木ホテルなどである。工業化のシンボルは拡張期の長崎造船所である。市民の憩場は諏訪公園と桜の名所中川カルルスであった。遊郭から貸座敷に変貌した丸山、寄合、出雲の花街、変容する出島や新地、蛍茶屋も写されている。古いたた

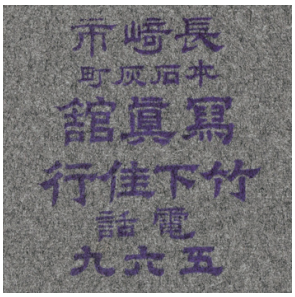


図7　献上帖の裏面の竹下佳行のゴム印

図8　同　竹下佳治のゴム印

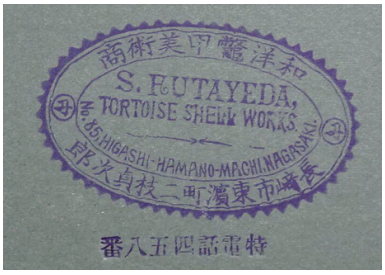


図9　荘田帖Ａ裏面の二枝鼈甲店のゴム印

ずまいの諏訪神社、松の森神社、興福寺、大音寺、清水寺の写真も採録されている。戊辰戦争や台湾の役の戦死者を祀る招魂社は新しい聖地であった。写真の選択には、荘田が長崎時代を回顧できるような工夫が認められる。

また明治三十二年（一八九九）八月に公布された要塞地帯法は要塞地区内での「水陸の形状」の撮影を禁じた（註10）ために、両帖には背景の山の稜線が消された写真が見受けられる。またこの十カ月後に調整された献上帖には重複する写真が収載されている。

三、荘田帖の製作者・写真撮影者・旧所蔵者

① 二枝鼈甲店

鼈甲細工の製作者である二枝鼈甲店の創業者貞治郎は、博多で三味線の撥（ばち）に鼈甲を貼る仕事をしたあと、明治十六年（一八八三）に、弟と長崎の東濱町で鼈甲細工の店を開業した。信頼を得るため仕事場は店先に置かれ、技術は徒弟が伝承した。外国人相手に販売が広がり、明治三十五年の『長崎県統計書』（註11）には、本田幾雄、田中辰之助、田中正夫、本田要造、矢野一、川端親雄、山本三太郎など十人の職人の雇用が確認できる。二代目の新三郎は青貝細工の螺鈿を得意とした（註12）。荘田帖の冒頭に置かれた写真（図10）は、竹下佳治が撮った二枝鼈甲店の店舗と商品のコラージュである。店舗は明治四十四年に四階建てに建て替える前の二階建てである。ファサードは明治のレトロ風で、看板にはミラノ博覧会の入賞メダルを配し、「鼈甲細工所二枝商店」と記す。軒屋根には「鼈甲象牙販売」と宣伝文句があり、ロシア語と英語の表記も確認される。外箱の底面のラベル（図4）には「宮内省御用品鼈甲美術品製造販売」と記し、英文でシンガポールとオーストラリア産の上質材料によりオリジナルで最新のデザインを施し、洗練された優雅で美術的な鼈甲細工を敏速に納品し、ヨーロッパの皇太子や貴顕の多くから御用達の栄を拝していると書く。二枝家に残る大正期の商標（図11）では「二枝鼈甲美術店」を名乗っている。二枝鼈甲店は江崎、川口と並ぶ長崎の老舗鼈甲店であった。

商品は、外国人好みの東洋趣味のデザインが多く、手鏡や櫛の入った化粧箱、簪（かんざし）や笄（こうがい）が入った髪結いセット、煙草ケース、オルゴール、宝石箱、額縁、文庫箱、置物（扇子、軍艦、人力車）などが紹介されている。二枝家に残された大正初めの『商品目録』には、櫛笄類儀式用一〇〇〇円、常用五〇〇円、普通品五十～一五〇円。両帖に共通の鼈甲製写真帖で、大の場合は二五〇～七〇〇円の記録がある。宮内省御用達であり、技術力の高い鼈甲美術店であった。両帖は特別注文であり、さらに高額であったと思われる。ちなみに図10の中央左上の写真立でポーズをとる女性は、竹下佳治（よしはる）が撮影した川上音二郎の妻貞奴である（註13）。貞治郎は音二郎の従弟であった。

図10　二枝鼈甲店の店舗と商品案内

図11　二枝鼈甲店の商標

② 竹下写真館

写真を撮影・調整したのは竹下写真館である。創業者の竹下佳治は本名打橋辰彌（うちはしたつや）で、打橋家は代々長崎の北瀬崎で御用米蔵預役を務めた。祖父は打橋竹雲（ちくうん）。文化元年（一八〇四）生まれの父打橋半雨（はんう）は名を喜衡（よしひら）、通称小野次、別号竹里（ちくり）と名乗った南画家で、上野彦馬の父俊之丞の親しい友人であった。辰彌は竹下家の養子となって竹下佳治に改名する。上野彦馬の門人となって写真術を学び、本石灰町で写真館を開業した。焼き付け仕上げの名人として知られ（註14）、両帖の仕上がりの精密度は高い。

明治三十六年から三十八年までは、のちに写真乾板の製作に取り組んだ高橋慎二郎が竹下写真館の技師として働いていた。佳治の息子佳行も彦馬の門人で、浦上山里

図12　荘田平五郎
（宿利重一『荘田平五郎』より）

村平ノ宿場の場頭をしたことがあり明治三十年代に父の竹下写真館を継承している。

佳治は明治三十年代、日露戦争前後に韓国の釜山本町で竹下写真館を開業したことが知られている。明治四十四年に佳行は長崎の写場を改築しているが、荘田帖および献上帖の写真を撮影した明治三十九～四十年頃は、佳治が釜山の写真館に出向き、長崎の竹下写真館は息子の佳行が経営していたようである。竹下写真館は、私製絵葉書の発行が許可された明治三十三年から絵葉書作成を手掛けた。両帖には絵葉書になった写真も見受けられる（註15）。竹下写真館は観光客向けに販売する長崎風景写真をロゴ付きの台紙に貼って常備していたようである。

③　荘田平五郎の長崎時代

荘田帖の旧蔵者荘田平五郎（図12）は、明治三十年六月三日に三菱合資会社の管事兼長崎造船所支配人に任ぜられた（註16）。「管事」は、社長に次ぐ地位である。長崎では着任してすぐの十月に工場附属の病院を開設し、正社員の職工の労災による負傷、疾病、解雇を救済するために三菱造船所職工救護法を制定した。このとき荘田は社長から直接雇用されない雇用者に対しても傭使人扶助法を制定している。荘田の活躍は福祉だけではなかった。長崎で初めて建造中の六千トン級大型航洋船常陸丸に対して、ロイド船級協会の検査員ロバートソンから指摘されたリベットの不具合問題を解決し、同船の完成を導いた。長崎におけるさらなる活躍は、造船所の工場管理のための「三菱造船所組織」の制定（明治三十一年）であった。これは「組織の三菱」の原型を成すものである。また荘田は明治三十二年十月に技術工養成の必要を感じて、三菱工業予備学校を設立している。明治三十三年十月二十六日にも皇太子嘉仁親王が九州訪問の長崎行啓で三菱造船所を訪れたが、荘田はこのとき自ら執筆浄書した「三菱造船所概要」を奉呈している（註17）。

明治三十四年五月からは長崎造船所の所長と東京における本社の管事を併任し、明治三十九年十二月九日に、長崎造船所長の併任を解かれている。長崎時代の荘田は長崎造船所の労務管理制度を確立し、原価計算を導入し、自前の工業予備学校や病院を創設して造船業の近代化と技術革新に取り組んだ。さらに日本で最初のターボンエンジンを装備する天洋丸、地洋丸の建造に取り組み、長崎造船所を東洋一に導き、長崎市に雇用と繁栄をもたらした。長崎市有志者から「荘田君」に贈呈された《鼈甲製写真画帖》は、このように長崎で活躍した荘田の退任にあたり市民有志がその労に報いたものと思われる。

明治三十八年、軍艦千代田の艦長東伏見宮依仁親王が宿泊し、「風光景勝を占める」という意味から占勝閣と名付けられた洋風建物（平成二十七年（二〇一五）から世界遺産）は、前年に荘田が所長宅として建てたものである。

四、両帖の比較と製作過程

木下（木谷）論文によれば、献上帖が注文されたのは明治四十年十月二日頃である（註18）。この注文は十カ月前に長崎市有志者が荘田へ贈呈された写真帖の出来栄えを知っての注文のようであるが、行啓まで一カ月もない段階での注文である。二枝鼈甲店と竹下写真館はこの難しい注文に突貫で応えなければならなかった。

①　荘田帖写真における五種の写真台紙型と両帖収載写真比較

荘田帖は、53、54、55、56、57の五枚が縦型であるほかは、すべてが横型である。これは普段の撮影では横撮りが多かったことを示唆している。A～Eの五種類の台紙のうちAの写真館ロゴ付き写真の二枝鼈甲店コラージュは常備品のようである（註19）。ロゴ付きのDの台紙も、常備品と思われる。Eの薄紙台紙付きは、荘田帖製作のため新たに撮影したものか、常備品を焼き増ししたもののようで、裏打ちに薄い台紙が貼られている。

荘田帖56と献上帖26の滝の観音、および荘田帖57と献上帖58の第三船渠の修理船は、同一写真である。この二枚は元々縦型として撮影されていたため、献上帖にそのまま収載されトリミングの必要がなかった。荘田帖の横型とは異なり縦型にトリミングされて献上帖に収載されているものは、荘田帖28の茂木港の桟橋（献上帖63）、50長崎測候所（図13、14：同31）、53若宮稲荷神社山門（同30）、21若菜川口の若菜橋（図15、16：同22）の四点である。これらは佳治の常備品の横型写真原板から縦型にトリミングしたようである。

荘田帖4崇福寺三門（楼門）（図17）は、献上帖42（図18）に、荘田帖55の茂木立岩は献上帖53にそれぞれ酷似していて、背景はほとんど同じであるが、カメラの高さが微妙に異なる。同じ時に撮影された別バージョンと考えておきたい。

② **被写体のカテゴリー**

両帖に収載された上記以外の写真は、次のようなカテゴリーに分類できる。

α：同じ被写体の別地点からの写真（諏訪神社、三菱長崎造船所建物・施設、諏訪公園、茂木道、中川カルルス、東濱町）

β：同じ被写体の別アングル（佐古招魂社、交親館（図19、20）、銭屋川と上野彦馬邸、蛍茶屋と一の瀬橋）

γ：それら以外のそれぞれにオリジナルな写真

③ **共通する被写体の画題と視点の相違**

両帖とも明治二十九年に官幣中社となった諏訪神社を被写体の写真として収載しているが、献上帖の写真は神社内陣の儀式の飾りつけを撮影している。おそらくその年の十月九日のおくんち祭礼日に撮影したものである。

図13　長崎測候所（荘田帖）

図14　長崎測候所（献上帖）

図15　若菜橋川口（荘田帖）

図16　若菜川口（献上帖）

図17　崇福寺三門（楼門）（荘田帖）

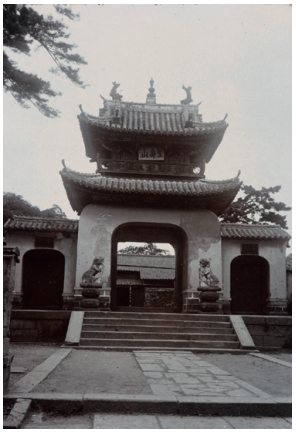


図18　崇福寺三門（楼門）（献上帖）

図21　三菱長崎造船所立神船渠（1）（荘田帖）

図19　交親館（荘田帖）

図20　交親館（献上帖）

図22　長崎造船所飽の浦工場（献上帖）

同様に、両帖とも三菱長崎造船所の施設を収載しているが、明治三十二年（一八九九）の要塞地帯法制定後に撮影されているため、背景の山の稜線が消された写真が見られる。荘田帖でいえば40三菱長崎造船所立神船渠（図21）、献上帖では12三菱長崎造船所第三船渠および14三菱長崎造船所飽の浦工場（図22）の写真である。

また、市内名勝地（中川カルルス、諏訪公園、滝の観音、銭屋川、中島川、蛍茶屋と一ノ瀬橋）、公的機関（交親館、測候所）、神社（諏訪神社、松の森神社、若宮稲荷神社）、仏閣（崇福寺）、招魂社（梅香崎、佐古）、繁華街（東濱町）、茂木（茂木道、若菜橋、茂木桟橋）の写真が共通に見られる。

④ 献上帖収載写真のオリジナリティ

荘田帖と比較し献上帖の特徴に目を向けてみると、竹下写真館が準備過程で考慮した課題が浮かび上がってくる。諏訪神社の中門に献灯が置かれ、内陣に菊花の幔幕と注連縄が張られている。おくんちの神社の祭典会場を撮影したと思われるが、行啓で神社を訪問できなかった皇太子殿下に対して、写真帖の冒頭で祭礼時の諏訪神社の向拝と内陣の様子を掲げることで歓迎の意が表明されているように思われる。

長崎行啓の主たる目的は、関西九州府県連合水産共進会の観覧であった。そのため共進会場の写真（御座所が置かれた便殿、観菊殿）が多く収録され、皇太子が帰艦前に訪問した稲佐の特許館の写真も収載される。

図23　傘鉾回し（献上帖）

図24　コッコデショ（献上帖）

図25　焼き入れのロゴ

皇太子は、共進会場の菊亭で、諏訪神社の祭礼のおくんちで奉納される各踊町の傘鉾奉納と、樺島町のコッコデショ（太鼓山）、萬屋町の鯨船、西濱町の蛇舟、銀屋町の鷹狩、諏訪町の蛇踊の各出し物を観覧した記録がある（註20）。その予定を知らされていた竹下父子は、十月九日から神社の踊馬場で演じられた傘鉾回しと、コッコデショの奉納出し物の写真を収載している。おくんちの開催日は竹下が献上帖の準備に入った直後の絶好のタイミングであった。この二枚だけには、「Y.TAKESITA／竹下寫」という写真館のロゴが焼き付けられているが、帰国した佳治が撮影したものであろうか（図23、24、25）。

学校の写真（長崎高等商業学校、長崎市立商業学校、勝山高等小学校、県立高等女学校）も献上帖の特色である。皇太子は長崎上陸時に商業学校や師範学校を始め県下の学校学生・生徒一万四八〇〇人の熱烈な歓迎を受けたが、佳行は明治時代における長崎の学校制度の成功をしっかり表現している。

また、長崎市の主要な神社（諏訪神社、伊勢宮神社、松の森神社、若宮稲荷神社）も網羅され、明治政府の出先となる官公庁（長崎市役所、長崎税関）もバランスよく収録されている。さらに、明治二十四年（一八九一）に、長崎市の一大公共事業として建設された西山水源地と、同三十六年（一九〇三）に完成した本河内水源地が収載される。

外国人居留地の建物としては、当時東洋一の規模といわれた長崎ホテルとカトリックの聖堂である大浦天主堂が納められている。富貴楼は長崎の高級料亭の代表格である。さらに、日露戦争に出兵する兵馬を長崎へ渡すために明治三十七年（一九〇四）十一月十六日銅座川口の千馬町から居留地の常磐町に架橋された出師（すいし）橋が撮影されている。

⑤ 荘田帖収載写真のオリジナリティ

献上帖と比較した、荘田帖収載写真のオリジナルな特徴は以下のようなものである。

第一に、三菱長崎造船所（飽の浦工場、立神第一船渠、第二船渠、第三船渠）の写真が充実している。これは荘田の長崎造船所所長退任という役職に関係している。第二に、司法（警察署、監獄）、交通・通信関係（汽車、長崎港内、郵便局・大北電信社）、商業関係（商品陳列所）、観光地（茂木ビーチホテル、小浜）の写真の充実は、勢力を増強してきた長崎の市民的、商人的な繁栄を表現している。第三

に、荘田が遊んだと思われる遊郭（丸山町、寄合町、出雲町）の写真が掲載されている。第四に、外国人居留地内の建物としては当時長崎ホテルとベルビューホテルに次ぐ大きなホテルであったフランスホテルが採録されている。

献上帖が皇室献上の視点から写真が集成されているのとは対照的に、荘田帖は実業家への贈呈という視点から写真が集成されている。

五、むすび

荘田帖は平五郎所長の長崎造船所退任に際し、長崎市民の有志が国内外の貴顕を顧客とする二枝鼈甲店に鼈甲細工のアルバムを発注し、上野彦馬の流れを汲む竹下写真館に写真の調整を依頼した。当主の二枝貞治郎は最高の美術品として鼈甲細工の写真画帖を製作し、写真の注文を受けた竹下写真館は、創業者の佳治が韓国店の経営に出向いていたため、息子佳行が中心となり、写真の集成が進められた。佳行は父が撮りためて商品化していた長崎写真のポートフォリオを基に、荘田平五郎が長崎時代を回顧できる写真集成として仕上げた。十カ月後の皇太子殿下の長崎行啓に際し、短時間であったが、佳行は荘田帖製作の経験を活かし、貞治郎も荘田帖の製作経験に基づき、敏速、適切に質の高い鼈甲美術写真画帖を納品できた。長崎における職人の共同がこれを実現したということができる。

以上の考察から、献上帖と荘田帖は、二冊合わせて美術工芸史および写真史上重要な資料的価値を有することが判明する。また両帖に収載された長崎の写真群は、要塞地帯法により風景撮影が難しくなる時期に長崎の都市景観を写し出すものであり、都市史や風俗史、社会史の研究に資料的な価値を提供するものである。

（長崎外国語大学長・長崎大学名誉教授）

註

（1）内容および剥がれたあとの釘の位置から「市」と推測される。

（2）中央の二枚がミラノ博覧会（明治三十九年）の金賞、左上はポートランド万国博覧会（ルイス・クラーク百周年記念博覧会：明治三十八年）の金賞、右上はセントルイス万国博覧会（明治三十七年）の銀賞のメダルである。

（3）この写真帖の装幀は警眼社社長田山宗堯に発注され杉柾で調整された。木下（木谷）知香「作品紹介　明治四〇年の長崎行啓と献上写真帖―〈鼈甲製写真画帖〉と〈長崎水産共進会写真帖〉」『三の丸尚蔵館年報・紀要』第二十号、二〇一五年、七十三頁。

（4）木下（木谷）氏、前掲論文（註3）七十一～七十八頁。

（5）荘田家の家紋については臼杵市荘田平五郎記念子ども図書館に確認していただいた。また、献上帖の装飾的、美術的特徴については五味聖「作品解説　鼈甲製写真画帖」『皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―』図録、九州国立博物館、二〇二一年参照。

（6）献上帖の法量は縦二七・七×横三八・〇×高さ七・三㎝。アルバム台紙十二枚、収録写真六十四枚。

（7）献上帖の帖の縁は二重菱菊桐紋である。五味氏、前掲作品解説（註5）、一八二頁。

（8）献上帖の1～20、33～52の四十枚には佳行の印、21～32、53～64の二十四枚には佳治の印が押されている。

（9）各写真の被写体は『長崎新聞』二〇二一年二月二十二日から翌年三月七日まで隔週で、姫野による「写真に見る115年前の長崎―日露戦争時代―」として三十八回にわたり連載・解説された。長崎外国語大学ホームページ　https://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/recnas/newspaper/（二〇二三年五月三十一日最終閲覧）参照。

（10）要塞地帯法については『新長崎市史』第三巻、近代編、長崎市史編さん委員会、二〇一四年、一八一～一八三頁参照。

（11）『長崎県統計書』https://jpsearch.go.jp/item/dignl-807984（二〇二三年五月三十一日最終閲覧）参照。

（12）二枝家（長崎市戸石）には鼈甲作品や関係資料が残されている。

（13）二枝家には新派劇の創始者川上音二郎・貞奴の関係資料と写真が伝世されている。

（14）「日本写真界の物故功労者顕彰録」日本写真協会『夜明けまえ知られざる日本写真開拓史Ⅰ関東編』東京都写真美術館、二〇〇七年三月、六十七頁参照。

（15）例えば荘田帖15の郵便局など。

（16）荘田平五郎の長崎時代については宿利重一『荘田平五郎』對胸舎、一九三二年、四九六～五四四頁参照。

（17）宿利氏、前掲書（註16）、五三〇頁。

（18）同日の『東洋日の出新聞』は長崎県が東濱町の二枝貞治郎に写真帖の製作を依頼したと記す。「皇太子殿下へ献上品伝献願書綴」（長崎歴史文化博物館所蔵）は、この鼈甲写真帖が長崎市参事会および長崎市長北川信従からの献上品に変更されている。行啓翌日の十月二十六日付『東洋日の出新聞』は、長崎県がこれとは別に船大工の写真師宮崎寛治郎が製作し、東京の警眼社主田山宗堯が製作した「長崎縣下の各名所の写真帖」を東宮殿下および有栖川宮殿下に献上したと記す。ここから木下（木谷）氏はこれが「府県写真帖」と同定し、二日の段階で長崎県が二枝に発注された写真帖は、長崎市および市参事会の献上品に変更されたとみる。二十五日付の『鎮西日報』に掲載された献上品目録は、「鼈甲製御寫眞ブック」は二枝貞二郎からの献上品とされ、これとは別の「寫眞帖」が「幕府時代の長崎」（金井延行著）とともに「當市参事会」からの献上品として記されている。最後は長崎県が「府県写真帖」を、長崎市および市参事会が二枝の鼈甲写真帖を献上したと思われるが、『鎮西日報』の記事はまだ混乱している。

（19）二枝鼈甲店（長崎市戸石）には同じ写真が複数現存する。

（20）『東洋日の出新聞』明治四十年十月二十五日号参照。

表1　荘田帖の収載写真一覧

番号	タイトル	寸法（cm）	写真台紙の型	アルバム台紙の窓の枠型	備考
帖	荘田平五郎旧蔵鼈甲写真画帖	27.3 ×36.5 × 7.0			刻字「贈呈荘田君」「長崎□（市ヵ）有志者」青色ビロード外箱
1	二枝鼈甲店	台紙11.3 ×18.0 写真11.3 ×15.7	A	a	手札版横　POP（焼きだし印画紙：以下同様） 下部ロゴの印字「Y.TakeshitaNAGASAKI ／長崎竹下写」
2	諏訪公園の桜と月見茶屋	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	a	手札版横　POP
3	浜の町	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
4	崇福寺三門（楼門）	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
5	諏訪神社中門	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	b	手札版横　POP
				b	写真欠落
6	大草付近を走る急行列車	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
7	寄合町と大徳寺、勅使道	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
8	炉粕町と松の森神社	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	a	手札版横　POP
9	佐古招魂社（1）	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	a	手札版横　POP
10	カルルスの桜（1）	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
11	カルルスの桜（2）	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
12	小浜海岸	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	b	手札版横　POP
13	茂木街道	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	b	手札版横　POP
14	一ノ瀬橋と蛍茶屋	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
15	長崎郵便局	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
16	丸山町遊廓	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	a	手札版横　POP
17	寄合町遊廓	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	a	手札版横　POP
18	カルルスの桜（3）	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
				b	写真欠落
19	若宮稲荷神社	台紙6.5 ×10.6 写真6.0 × 9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
20	交親館	台紙6.5 ×10.6 写真6.0 × 9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
21	若菜川口の若菜橋	台紙6.5 ×10.6 写真6.0 × 9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
22	警察本部	台紙6.5 ×10.6 写真6.0 × 9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
23	佐古招魂社（2）	台紙6.5 ×10.6 写真6.0 × 9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
24	諏訪公園（1）	台紙6.5 ×10.6 写真6.0 × 9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
25	新地・出島・長崎病院	写真6.0 × 9.0、台紙同形	E	c	名刺版横　POP
26	片淵の長崎刑務所	写真6.0 × 9.0、台紙同形	E	c	名刺版横　POP
27	長崎港の船と稲佐山	写真6.0 × 9.0、台紙同形	E	c	名刺版横　POP
28	茂木港の桟橋	写真6.0 × 9.0、台紙同形	E	c	名刺版横　POP
28	長崎県庁	写真5.5 × 9.0、台紙同形	E	c	名刺版横　POP
30	出島大橋と新地の中国商社	写真5.5 × 9.0、台紙同形	E	c	名刺版横　POP
31	日の出町遊郭	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	a	手札版横　POP
32	茂木街道と竹林	台紙10.7 ×16.4 写真10.3 ×14.0	B	a	手札版横　POP
33	諏訪公園の入口の三賢人の碑	写真10.0 ×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP

番号	タイトル	寸法（㎝）	写真台紙の型	アルバム台紙の窓の枠型	備考
34	銭屋川の上野彦馬邸前	写真10.0×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
35	大音寺山門	台紙10.7×16.4 写真10.3×14.0	B	b	手札版横　POP
36	諏訪公園（2）	台紙10.7×16.4 写真10.3×14.0	B	b	手札版横　POP
37	諏訪公園の入口と商品陳列所	写真10.0×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
38	商品陳列所	写真10.0×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
39	高麗橋	台紙10.7×16.4 写真10.3×14.0	B	a	手札版横　POP
				a	写真欠落
40	三菱長崎造船所立神船渠（1）	写真10.0×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
41	大音寺	写真10.0×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
42	三菱長崎造船所向島第二船渠	台紙10.7×16.4 写真10.3×14.0	B	b	手札版横　POP
43	清水寺	台紙10.7×16.4 写真10.3×14.0	B	b	手札版横　POP
44	浦上の長崎医学校	写真10.0×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
45	茂木若菜川	写真10.0×13.8、台紙同形	C	a	手札版横　POP
46	フランスホテル	台紙10.7×16.4 写真10.3×14.0	B	a	手札版横　POP
47	三菱長崎造船所第三船渠	台紙10.7×16.4 写真10.3×14.0	B	a	手札版横　POP
48	田上峠の茶屋	写真10.0×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
49	茂木ホテル	写真10.0×13.8、台紙同形	C	b	手札版横　POP
50	長崎測候所	台紙6.5×10.0 写真6.0×9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI ㋵」、「長崎竹下写㋵」
51	佐古招魂社（3）	台紙6.5×10.0 写真6.0×9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI ㋵」、「長崎竹下写㋵」
52	興福寺	台紙6.5×10.0 写真6.0×9.0	D	c	名刺版横　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI ㋵」、「長崎竹下写㋵」
53	若宮稲荷神社山門	台紙6.5×10.0 写真6.0×9.0	D	c	名刺版縦　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
54	松の森神社	台紙6.5×10.0 写真6.0×9.0	D	c	名刺版縦　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
55	茂木立岩	台紙6.5×10.0 写真6.0×9.0	D	c	名刺版縦　POP 印字「Y.TakeshitaNAGASAKI」、「長崎竹下写」
56	滝の観音	写真9.0×6.0、台紙同形	E	d	名刺版縦　POP
57	三菱長崎造船所第三船渠で修理中の船	写真9.0×6.0、台紙同形	E	d	名刺版縦　POP
58	三菱長崎造船所立神船渠（2）	写真9.0×6.0、台紙同形	E	d	名刺版横　POP
59	諏訪公園の呑港茶屋	写真9.0×6.0、台紙同形	E	d	名刺版横　POP
60	三菱長崎造船所飽ノ浦工場（1）	写真9.0×6.0、台紙同形	E	d	名刺版横　POP
61	三菱長崎造船所飽ノ浦工場（2）	写真9.0×6.0、台紙同形	E	d	名刺版横　POP

写真台紙の型
A：手札版・灰色厚紙台紙・ロゴ入り　1枚
B：手札版・白色金縁厚紙台紙・ロゴなし　17枚
C：手札版・白色斑点入り薄紙台紙・ロゴなし　19枚
D：名刺版・灰色厚紙台紙・ロゴ入り　12枚
E：名刺版・白色薄紙台紙・ロゴなし　12枚

アルバム台紙の窓の枠型
a：上縁が曲線の四角形大二枚分
b：楕円形大二枚分
c：上縁が曲線の四角形小六枚分
d：楕円形小六枚分

表2　献上帖の収載写真一覧

番号	タイトル（木下（木谷）論文）	タイトル修正	写真寸法（縦×横㎝）	裏面ゴム印	アルバム台紙の窓枠の型	備考
1	諏訪神社の鳥居		14.2×9.7	①	a	お祝いの注連縄あり
2	諏訪神社の旧中門　遠景	⇒諏訪神社の旧中門	14.1×9.7	①	a	お祝いの垂れ幕と提灯飾りあり
3	諏訪神社の旧中門　近景	⇒諏訪神社の旧本殿	14.2×9.8	①	b	お祝いの幔幕あり
4	諏訪神社例祭の傘鉾		13.8×9.7	①　※ただし、表面に②の焼きこみあり	b	
5	諏訪神社例祭の太鼓山	⇒諏訪神社例祭の太鼓山（コッコデショ）	13.9×9.7	①　※ただし、表面に「Y.TAKESITA　竹下寫」の焼きこみあり	b	
6	伊勢の宮神社	⇒伊勢宮神社	14.2×9.7	①	b	
7	長崎高等商業学校		14.1×9.7	①	a	
8	長崎市立商業学校		14.1×9.8	①	a	
9	勝山高等小学校		14.1×9.7	①	a	
10	長崎県立高等女学校		14.1×9.8	①	a	
11	若宮稲荷神社		14.1×9.7	①	b	
12	出島	⇒三菱長崎造船所第三船渠	14.1×9.8	①	b	
13	飽の浦中央発電所	⇒三菱長崎造船所飽の浦中央発電所	14.1×9.7	①	b	
14	長崎造船所飽の浦工場ヵ	⇒三菱長崎造船所飽の浦工場	14.1×9.7	①	b	
15	長崎招魂社ヵ	⇒梅香崎招魂社	14.1×9.8	①	a	
16	長崎招魂社	⇒佐古招魂社	13.8×9.7	①	a	
17	長崎税関		14.1×9.7	①	b	
18	長崎市役所		14.2×9.7	①	b	
19	第二回関西九州府県連合水産共進会会場　本館		14.2×9.8	①	b	
20	第二回関西九州府県連合水産共進会場　特許館		14.1×9.7	①	b	
21	若菜橋	⇒若菜橋1	9.0×6.0	②	d	
22	若菜橋	⇒若菜橋2	9.0×6.0	②	d	
23	【海岸】	⇒茂木海岸と連絡船	9.0×6.0	②	d	
24	茂木街道の竹林		9.0×5.9	②	d	
25	【山と木】	⇒茂木海岸1	9.0×6.0	②	d	
26	滝の観音ヵ	⇒滝の観音	9.0×6.0	②	d	
27	諏訪神社長坂		9.1×6.0	②	c	
28	松の森天満宮	⇒松の森神社の石橋と鳥居	9.0×6.0	②	c	
29	松の森天満宮	⇒松の森神社参道	9.0×6.0	②	c	
30	【神社】	⇒若宮稲荷神社	9.1×6.0	②	c	
31	【建物】	⇒長崎測候所	9.0×6.0	②	c	
32	中川カルルスの桜		9.0×6.0	②	c	
33	第二回関西九州府県連合水産共進会　遠景		14.1×9.8	①	a	
34	東濱町　呉服屋藤瀬		14.1×9.8	①	a	
35	中島川上流	⇒銭屋川と上野彦馬邸	14.1×9.7	①	b	
36	桃渓橋		14.1×9.8	①	b	
37	出師橋		14.1×9.7	①	b	
38	長崎ホテルと香港上海銀行		14.1×9.7	①	b	
39	長崎郵便局		14.2×9.7	①	a	
40	梅香崎橋		14.1×9.7	①	a	
41	丸山遊郭		14.1×9.8	①	a	
42	崇福寺山門	⇒崇福寺三門（楼門）	14.1×9.8	①	a	
43	長崎西山水源地ヵ	⇒長崎本河内水源地	14.1×9.7	①	b	

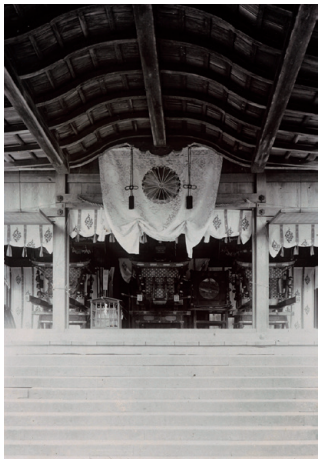
番号	タイトル（木下（木谷）論文）	タイトル修正	写真寸法（縦×横㎝）	裏面ゴム印	アルバム台紙の窓枠の型	備考
44	長崎西山水源地	⇒長崎西山水源地	14.1 × 9.8	①	b	
45	【屋敷】	⇒諏訪公園の東屋	14.2 × 9.7	①	b	
46	中川カルルス		14.1 × 9.7	①	b	
47	茂木街道ヵ		14.1 × 9.8	①	a	
48	【川と鴨】	⇒鳴滝ヵ	14.1 × 9.7	①	a	
49	富貴楼		14.1 × 9.7	①	a	
50	蛍茶屋		14.2 × 9.7	①	a	
51	【川と石橋】	⇒一ノ瀬橋	14.1 × 9.7	①	b	
52	東濱町　二枝鼈甲店		13.6 × 9.8	①	b	
53	茂木立岩		9.0 × 6.0	②	d	
54	中川カルルスの桜ヵ	⇒中川カルルスの桜	9.1 × 6.0	②	d	
55	諏訪公園		9.1 × 6.0	②	d	
56	交遊館	⇒交親館	9.0 × 6.0	②	d	
57	長崎貿易商集会所		9.0 × 6.0	②	d	
58	長崎造船所	⇒三菱長崎造船所第三船渠の修理船	9.1 × 6.0	②	d	
59	大音寺	⇒大音寺山門	9.1 × 6.0	②　※ただし「NAGASAKI」なし、擦れたヵ	c	
60	長崎伝統の鯉のぼり		9.0 × 6.0	②	c	
61	【海岸】	⇒茂木海岸 2	9.0 × 6.0	②	c	
62	【海岸】	⇒茂木海岸 3	9.0 × 6.0	②	c	
63	茂木桟橋		9.0 × 6.0	②	c	
64	大浦天主堂		9.0 × 6.0	②	c	

裏面ゴム印
①：長崎市本石灰町寫眞舘竹下佳行　電話五六九
②：Y.TAKESITA　竹下寫　NAGASAKI

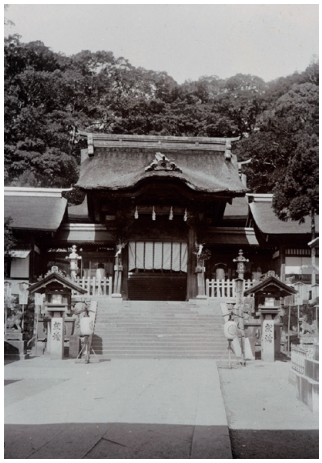
アルバム台紙の窓枠の型
a：上縁が曲線の四角形大二枚分
b：楕円形大二枚分
c：上縁が曲線の四角形小六枚分
d：楕円形小六枚分

《鼈甲製写真画帖》（献上帖）収録写真

4. 諏訪神社例祭の傘鉾



3. 諏訪神社の旧本殿



2. 諏訪神社の旧中門

1. 諏訪神社の鳥居

8. 長崎市立商業学校

7. 長崎高等商業学校

6. 伊勢宮神社

5. 諏訪神社例祭の太鼓山

12. 三菱長崎造船所第三船渠

11. 若宮稲荷神社

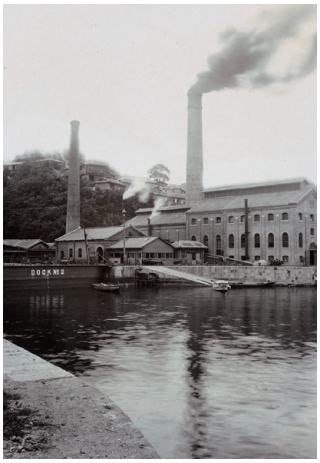
10. 長崎県立高等女学校

9. 勝山高等小学校

16. 佐古招魂社

15. 梅香崎招魂社

14. 三菱長崎造船所飽の浦工場



13. 三菱長崎造船所飽の浦
中央発電所

20. 第二回関西九州府県連合
水産共進会場　特許館

19. 第二回関西九州府県連合
水産共進会会場　本館

18. 長崎市役所

17. 長崎税関

24. 茂木街道の竹林

23. 茂木海岸と連絡船

22. 若菜橋2

21. 若菜橋1

28. 松の森神社の石橋と鳥居

27. 諏訪神社長坂

26. 滝の観音

25. 茂木海岸1

32. 中川カルルスの桜

31. 長崎測候所

30. 若宮稲荷神社

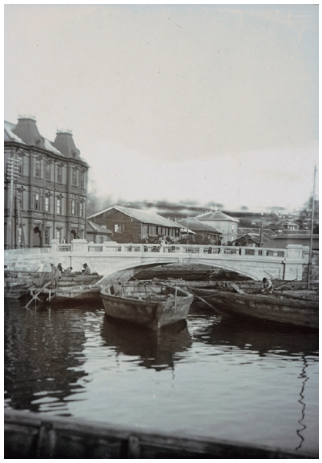
29. 松の森神社参道

36. 桃渓橋

35. 銭屋川と上野彦馬邸

34. 東濱町　呉服屋藤瀬

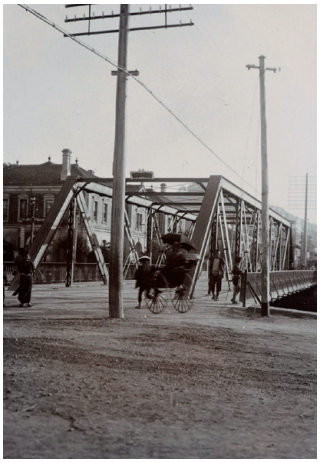
33. 第二回関西九州府県連合
水産共進会　遠景



40. 梅香崎橋

39. 長崎郵便局

38. 長崎ホテルと香港上海銀行



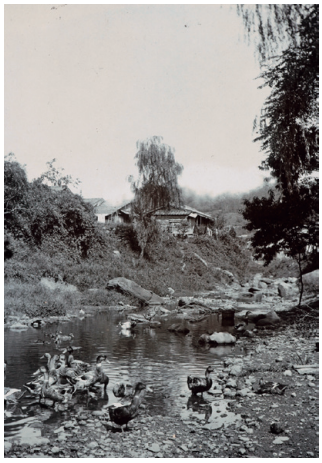
37. 出師橋

44. 長崎西山水源地

43. 長崎本河内水源地

42. 崇福寺三門（楼門）

41. 丸山遊郭



48. 鳴滝ヵ

47. 茂木街道ヵ

46. 中川カルルス

45. 諏訪公園の東屋

52. 東濱町　二枝鼈甲店

51. 一ノ瀬橋

50. 蛍茶屋

49. 富貴楼

56. 交親館

55. 諏訪公園

54. 中川カルルスの桜

53. 茂木立岩

60. 長崎伝統の鯉のぼり

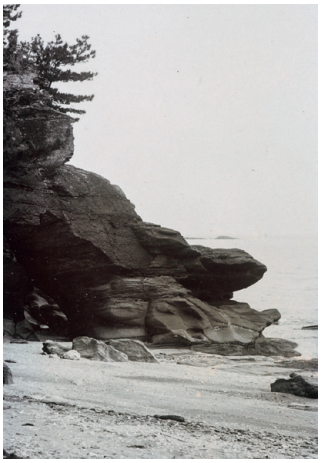
59. 大音寺山門

58. 三菱長崎造船所第三船渠の修理船

57. 長崎貿易商集会所

64. 大浦天主堂

63. 茂木桟橋



62. 茂木海岸3

61. 茂木海岸2

・三の丸尚蔵館年報・紀要中、作品名や作者、制作年などの表記は、年報・紀要発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館年報・紀要の著作権は宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館年報・紀要（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場は、書籍と同様に出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。（三の丸尚蔵館の収蔵品以外の図版は執筆者へお問い合わせください）

三の丸尚蔵館年報・紀要

第29号
令和４年度
編集：宮内庁三の丸尚蔵館
（東京都千代田区千代田１－１）
発行：宮内庁
制作：株式会社アイワード
（札幌市中央区北３条東５丁目５番地91）
翻訳：株式会社イー・シー
令和５年６月30日発行

©2023, The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shōzōkan